

教職員わいせつ行為防止

自己分析シート導入

県教委

県教育委員会は9日、教職員らによるわいせつ行為が昨年度、続いたことを受け、自らの性的嗜好を確認する「自己分析支援チェックシート」を導入すると発表した。相談窓口も設置し、犯罪行為の防止を図る。

昨年度の教職員らによるわいせつ行為は、前年度比6件増の7件に上った。県教委は、わいせつ行為発生の原因に「自己の認識の欠如や心理行動に病的な面」があるなど分析し、相談窓口と運動したチェックシートを導入した。シートには「子どもに対する性的な想

像や考えを持っていても、それは少なくとも子どもを傷つけていないから、そんなに悪いことではない」などの

6問があり、3択で回答を選ぶ。回答によっては、相談窓口へ連絡するよう勧めている。県教委は、今月中旬

に県内の全公立学校にシートを配布する予定で、管理職や事務職を含め全教職員約1万8000人が対象にな

る。シートは回収せず、相談するかどうかも本人に委ねるといふ。

シート導入に関わった、精神科医で性障害専門医療センター(東京都)の福井裕輝代表理事は「(子どもへの性的嗜好などの)ゆがみを自覚してもらい、治療につなげることが大事」と話した。「カン・クリスティナ」